

| | |
|---------|-------|
| プログラム番号 | 06043 |
|---------|-------|

平成18年度「国費外国人留学生(研究留学生)の優先配置を行う特別プログラム」

【1. 大学の概要】

| | | | |
|--------------|---|----------------------------------|--|
| ①大学名 研究科名 | 広島大学 大学院国際協力研究科 | | |
| ②学長名 | 牟田 泰三 | | |
| ③所在地 | 〒739-8511 広島県東広島市鏡山一丁目3番2号 | | |
| ④担当者 連絡先 | 所属部局・職名 | 大学院国際協力研究科学生支援グループ・主査 | |
| | 担当者氏名 | 甲田 政道 | e-mailアドレス koku-gaku@office.hiroshima-u.ac.jp |
| | 電話・FAX番号 | 電話：082-424-6909 Fax：082-424-6904 | |
| ⑤ホームページ URL | http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/kokusai/index.html | | |
| ⑥大学院在学留学生数 | 569人（うち、国費留学生 191人） | | |

【2. プログラムの概略】

| | |
|---------------|---|
| ①プログラムの名称 | 途上国の持続的発展を担う人材育成特別プログラム－環境・教育・平和－ |
| ②プログラムの形態 | 博士課程前期＋博士課程後期（2年間＋3年間） |
| ③実施研究科・専攻 | 大学院国際協力研究科 開発科学専攻・教育文化専攻 |
| | （所在地）〒739-8529 広島県東広島市鏡山一丁目5番1号 |
| ④連携大学・研究科・専攻名 | なし |
| ⑤受入れ学生数 | 32人（内研究留学生優先配置人数：9人、私費留学生23人） （9人の内訳：博士課程前期4人、後期5人） （23人の内訳：前期20人、後期3人）（内日本人学生数：0人） |
| ⑥担当教員数 | 合計 92人（うち専任：31人、兼任：26人、非常勤：35人） |
| ⑦研究科長(代表者)名 | 所属部局・職名 大学院国際協力研究科・研究科長 |
| | 研究科長名 金原 達夫 |

【3. プログラムの内容】

1. 本プログラムの目的

本プログラムは、持続的発展に必要な環境・教育・平和の各分野において、研究科の理念である途上国の発展に資する人材の育成を実現することを目的とする。

2. 本プログラムの特色

本プログラムでは、アジア・アフリカを中心とした途上国から優秀な学生を募集し、英語による教育・研究を行い、途上国の発展過程において生じる様々な問題の解決のために貢献できる高度専門職業人及び研究者を養成する。そのため、講義によって得られる専門的知識はもとより、知識を応用して実際の問題を解決する能力の育成に重点を置く。本プログラムでは、文理融合型研究を重視して、本研究科の3本柱である国際環境協力・国際教育協力・国際平和協力の分野における問題解決能力の育成を図る点に独自性がある。本研究科には、環境・教育・平和の各分野に、途上国での経験が豊富で、英語で講義と研究指導を行える多数の教員が在籍している。

本研究科は開設以来、下記のような国際協力事業・国際共同研究を行い、先端的・実証的な研究を推進してきた。

- ・ 青年海外協力隊(JOVC)連携ザンビア特別教育プログラム(2002年度～)
- ・ 21世紀COEプログラム「社会的環境管理能力の形成と国際拠点」(2003～07年度)
- ・ 国際協力機構(JICA)連携バングラデシュ理数科教育プロジェクト(2004～06年度)
- ・ 魅力ある大学院教育イニシアティブ「国際協力学を拓く実践的研究者育成の試み」(2005～06年度)
- ・ 平和構築連携融合事業(2005～07年度)

これらは、学生にも実践的な学習と研究の機会になっている。

3. 留学生へのアドバイス

a) 博士の学位を目指す学生の受け入れ

高度専門職業人及び研究者となるため、このプログラムを志望する学生諸君には、博士の学位を取得できるよう勉学に励んでいただきたい。真の問題解決能力を身に付けるためには、博士前期課程での研究では不十分である。また、博士学位の取得は、帰国後、大学・政府機関・民間でのリーダー的な役割を果たすためには大きな意味をもつだろう。

b) 学際・文理融合型学習への挑戦

途上国では、経済発展ばかりでなく、環境・教育・平和の基礎的な裏づけがなければ、公正でバランスのとれた持続的な発展を実現することはできない。本プログラムにおけるカリキュラムの内容は、前述の分野をカバーするものであり、途上国からの留学生にとって魅力的なものである。自分の分野を深く研究することはもちろん、総合的な視野をもてるよう、他の分野にも目を向け、学際的な勉強をしてほしい。

4. 各分野の特色

本プログラムに配置された留学生は、既存の5つの教育コースに所属するが、同時にコースを横断する環境・教育・平和の3分野のいずれかの分野を選択することにより、学際的な教育・研究を行う。各々の特色は以下のとおりである。

- ① **環境分野**・・・地球・地域・都市の環境に関する知識をもとに、持続可能な発展を実現するための開発援助政策、環境にやさしい開発技術について、主にアジアを中心とした途上国を対象に教育・研究を行う。2003年度に採択された21世紀COEプログラム「社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点」では、社会的環境管理能力の形成をキーワードとした文理融合型学際研究を途上国の大学・研究機関と共同で展開し、国際環境協力のイノベーションへ向けた新たな知識創造を行っている。当分野は、COEプログラムにおける成果を踏まえ、留学生を対象とした国際環境協力に関する教育研究活動を引き続き行うと同時に、国際平和協力・国際教育協力の研究教育と連携し、「アジア・アフリカにおける持続可能な発展へ向けた社会的能力の形成と国際協力拠点」の構築を目指し、世界レベルの教育研究活動を行う。
- ② **教育分野**・・・教育政策・理数科教育・言語教育の3つの分野を柱に、多くの国際教育協力プロジェクトに主体的に参画し、それらをフィールドとして留学生に自国の教育の問題点の把握や途上国の現状に根ざした解決策の提示ができる実証的研究能力を身に付けさせるための講義を提供している。そのため、インターンシップやフィールドワークを重視するとともに、教育研究方法に関する講義を拡充した。また、昨今自律的な発展の手段として注目を集めている住民参加や学校経営改善に関する講義を提供している。更に、帰国後、政策を実現するためには、合意形成や政策決定の過程を踏み、また政策評価を行わなければならないので、それに資する実践型の内容を講義に取り入れている。これらの講義・演習を踏まえて、多くの留学生が自国の問題点の把握とその解決策の提示に関する実践的な研究を行う。講義・演習と研究を通じて、修了生が帰国後に実際に母国の発展に貢献できるような能力を育成する。
- ③ **平和分野**・・・平和は、発展の基礎であり、すべての人類の願いである。当分野では、どのように紛争が生まれてきたのか、紛争を克服した共生の社会はいかにして実現することができるのかという問題について、政治・社会・法そして文化の諸側面から、理論的・実践的・政策的に教育研究し、広い意味での平和に至る道筋を探求する。特に、潜在的・顕在的に紛争状態が確認できる地域のフィールドを知ることを重視し、厳密な実証的研究を行う。また課題解決型のアプローチなどを用いながら、紛争を発見し克服するための平和教育の方法を開発する。それらを通じて、社会のあらゆるレベルに生起しうる紛争を平和的に解決する能力や、未来の社会を平和的に構築する能力を養成する。

5. 応募の条件

本プログラムに応募する者は、予め志望する指導教員に連絡を取り、その面接を受けなければならない。教員を検索するためには、下記のホームページを参照されたい。

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/idec/>